

天使」が発売。同曲は他の歌手、メリー・ホプキン（オリジナルの英語盤を歌った）、サンディー・ショウ、ダリダもレコードを出したが、オーラのヴァージョンは易々とヒット・チャートにランク・インした。オーラはこの曲のスペイン語盤とギリシャ語盤のレコーディングも行なった。

12月20日、オーラは21歳の誕生日を迎えて成人した。いまや完成を見たチェッロ・ヴェロネーゼの邸宅で、両親や友人たちと誕生パーティが行なわれた。オーラはそこに1人の男性を連れて現れた。それは2年後に彼女の最初の正式な婚約者となるヴィットリオ・セルモだった。

1969年はオーラにとって幸先よく始まった。『美女と野獣』という全13回のラジオ番組のメイン出演者に抜擢されたのだ。1月9日木曜日13時からラジオ・ドゥエで放送開始。オーラは自分のヒット曲をたくさん歌い、物真似で他の歌手たちの曲も歌った。番組の主題歌は「ゼロ・イン・アモーレ (Zero in amore)」。フランコ・カリファーンがオーラのために書いた曲で、後に同年のサンレモ音楽祭で大成功を収めた楽曲「雨 (La pioggia)」のシングル盤 B 面となるのだった。



「雨」はサンレモ音楽祭に披露される前から、チンクェッティに再び注目を集める曲として話題になっていた。オーラのパートナーはフランス人アイドルのフランス・ギャルで、1965年のユーロビジョンの優勝者である。今回は輝ける経歴を持つ大物たちや後にビッグとなる者たちの初出場の年となり、リタ・パヴォーネが、「冒険 (Un'avventura)」を歌うルーチョ・

バッティスティが、「涙のさだめ (Zingara)」の作者としてジャンニ・モランディが、ステイーヴィー・ワンダーとペアを組んだガブリエッラ・フェリが、そして急遽アンナ・イデンティチの代わりにすることになったロザンナ・フラテッロが参加したのだ。オーラは、スタイリストのピア・ラメによる、雨をイメージした銀色のストライプの衣装をまもって登場した。この曲は決勝進出を果たし、オーラはパートナーよりもずっと高い評価を受けた。フランス・ギャルの「マリオネット風」の動きは批評家たちには好まれなかったのだ。音楽祭が始まる前に、ジャンニ・モランディはオーラに電報を打っていた。〈今年は「雨」の年になる〉と。まさにその通り、その年のカンツォニッシマでモランディは「雨が降ってきた (Scende la pioggia)」を歌って優勝していたのだ。

「雨」は予選で第3位となり、決勝では第6位だった。しかしレコードの売り上げは予想をはるかに越えた大成功を収めた。フランス語盤が発売され、フランス市場を征服すると、続いて日本語盤、ギリシャ語盤、英語盤、スペイン語盤、ドイツ語盤が発売された。その反響によりオーラは世界ツアーを行ない、フランス、スペイン、カナダ、南アメリカ、日本といった国々を回った。ミラノでは銀のピランデッロ賞が贈られた。「雨」はオーラにとって「夢みる想い」以来、外国のヒット・チャートで頂点を極めた2度目の大ヒット曲となったのだ。



オーラは、第6回夏のディスクフェスティヴァルに参加。オーラの参加曲「消え去る想い (Il treno dell'amore)」は、「雨」

の作者（パーチェ - パンゼリ - アルジェント - コンティ）によるものだった。3年連続でオーラの曲は予選を突破し、サン＝ヴァンサンで行なわれる決勝（6月12、13、14日）に進んだ。「消え去る想い」は、「雨」ほどの力を持っていなかったとはいえ、評価は高かった。フランス語盤とスペイン語盤も制作されたこの曲は、発売されるアルバムタイトル曲にもなった。そのアルバムにはオーラの他のヒット曲に加えて、「ズン・ズン・ズン (Zum zum zum)」(日本市場のためだけに事前にレコーディングされていた) や「夢のかなたに (Non illuderti mai)」(オリエッタ・ベルティのヒット曲) のような曲も収録されていた。

7月24日木曜日、RAIのテレビ番組センツァ・レーテは1回分まるごとをオーラ特集にあてた。この番組内でオーラは自分のヒット曲を歌うだけではなく、巨匠マリオ・ガンジのギター伴奏で、「花はどこへ行った (Where have all the flowers gone)」や「美味しい水 (L'acquabelle)」など、まだ自分ではレコーディングを行っていない曲を感性豊かに歌った。9月18日から20日にかけて、オーラは第5回ヴェネツィア音楽祭に参加し、ビガッツィ - カヴァッラロ作詞作曲の洗練された曲「リヴァプール (Liverpool)」を披露した。しかしこの曲は期待されたほどレコード売り上げが伸びず、一方で「雨」はまだヒットし続けていた。

オーラは1969年のカンツォニッシマ出場を辞退したが、サンレモ音楽祭については辞退せず、1970年の参加を約束した。週刊誌オッジは、全活動期間に渡るレコード総売り上げの優れた歌手ランキングを発表した。オーラはミーナとリタ・パヴォーネに次いで第3位だった。

翻訳協力：久保耕司、田中寿枝